

岐阜県の一括出土銭＜資料集成＞

小野木 学

はじめに

現代社会において、貨幣は支払いや交換における主要な媒介物として使用されるとともに、祝儀や香典、神社仏閣での賽銭など、様々な場で誰もが日常的に使用している。このような身近な存在であるために、人々の貨幣への関心は高く、学校での出前授業や地域講座等では遺跡から出土した銭貨（以下、遺跡から出土した円形方孔の貨幣を「銭貨」と呼称する。）を題材とすることもあり¹⁾、それらが地中から大量に発見されると新聞等で大きく報道されることが多い。

岐阜県でも数十箇所で大量の銭貨が発見されている。しかし、それらの大半は掘削工事等に伴って偶然発見されたものであり、その存在が周知されているとは言い難い。そのため、小稿では、約 100 枚以上が一箇所（若しくは一遺構）でまとまって出土した事例（以下、「一括出土銭」と呼称する。）を集成し²⁾、その出土地や枚数・銭種構成、収納容器などを検討することで、今後の県内における銭貨研究の基礎資料としたい。

1 出土地等

岐阜県における一括出土銭は、管見の限りで 26 地点 28 例を数える（図 1、表 1・2）。出土年は明治時代以前が 6 例、昭和年間で 14 例、平成年間で 5 例、不明が 3 例であり、特に昭和 40～50 年代の出土例が多い。また、出土した理由は工事中の不時発見が圧倒的に多く、発掘調査による出土例は 1 例のみである。

出土地は現在の行政区分の各地域（西濃、岐阜、中濃、東濃、飛騨）で認められ、安八郡神戸町を中心とする範囲の 6 例（3～8、以下カッコ内の番号は図 1、表 1・2 の番号に対応する。）、

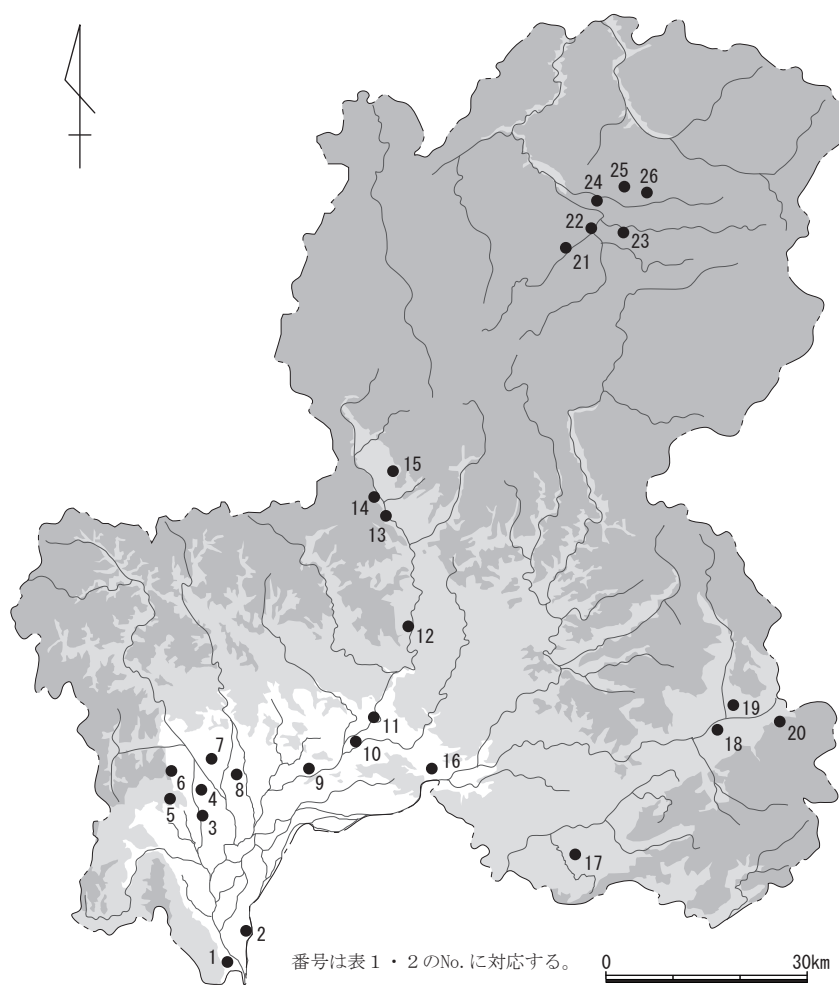


図 1 岐阜県の一括出土銭位置図

郡上市大和町の3例（13～15）、中津川市の3例（18～20）、高山市の6例（21～26）は、比較的出土地がまとまっている。また、長良川に沿って出土地が散在しており（9～14）、主要河川を媒介とした商品流通の一端を窺うことができる。

個別の出土地をみると、城館内から出土した事例（9・23）、城館と関連する可能性がある事例（3）、寺社と関連する可能性がある事例（4・6・8・17・25）、村落と関連する可能性がある事例（2）、屋敷地の伝承が残る事例（16・18・21）など様々である。城館内の事例は地域の拠点的な場における銭貨の出土例として理解できるが、それ以外の事例については特定な場の性格や人物像と直接関連付けて説明することは困難である。出土地の分析をさらに進めるためには、詳細な出土位置の確認と出土地の考古学的研究、さらに当該地域に関する文献史料の調査や歴史地理学的研究が不可欠と考えられる。

2 枚数と銭種構成

最も多くの銭貨が出土した事例は加茂郡坂祝町黒岩（16）であり、約3m離れた2箇所から、合計約11万枚の銭貨が2つの甕に収納された状態で出土したとされている³⁾。この事例は、他の岐阜県内の事例と比べて圧倒的に多いといえる。他に県内の1万枚以上の確実な出土例は、安八郡神戸町大字南方（4）の10,451枚、郡上市大和町大間見友久（15）の10,766枚、高山市丹生川町森部（26）の14,896枚の3例のみで、中津川市千旦林辻原（18）と高山市丹生川町町方尾崎城（23）が1万枚以上の出土と伝えられている。

また、出土した銭種やその枚数が判明している事例を表3・4にまとめた。このうち、銭種別枚数と合計枚数が明らかな事例で、散逸数の多い高山市丹生川町町方尾崎城（23）と、現存分との照合が困難な高山市丹生川町森部（26）を除く6例（4・9・13～15・25）を中心に検討する。

6例の合計枚数は30,494枚であり、鑄造された王朝ごとの構成比をみると、北宋銭が83.12%（25,347枚）と最も多く、次いで唐銭7.51%（2,290枚）、明銭6.65%（2,028枚）、南宋銭2.15%（657枚）となり、以上で全体の99%に達する。また、銭種別の枚数をみると、皇宋通寶が12.38%（3,775枚）と最も多く、次いで元豊通寶11.63%（3,546枚）、元祐通寶9.03%（2,755枚）、熙寧元寶8.96%（2,733枚）、開元通寶6.88%（2,099枚）となり、鈴木公雄氏が示した全国の出土備蓄銭銭種総順位と大差がない⁴⁾。次に、各出土銭の合計枚数に対する各銭種の比率をみると、元豊通寶が6例ともに10%以上を占め、皇宋通寶は5例において10%以上を占める結果となった。また、永樂通寶は郡上市大和町大間見友久（15）で10.63%、郡上市大和町島野口（13）で9.47%、岐阜市長良城之内遺跡（9）で9.04%であり、3例の比率の平均値は9.71%と高い出現率を示している。

一方、出土例の少ない銭種をみると、1枚のみの出土が確認できる銭種は五銖、咸康元寶、建炎通寶折二銭、乾道元寶、大宋元寶、2枚の出土が確認できる銭種は崇寧通寶、建炎通寶、紹興通寶、乾道元寶折二銭、端平元寶、世高通寶であり、このうち、安八郡神戸町大字南方（4）出土銭の咸康元寶と紹興通寶を図示した（図2-7・9）。また、全国的にみて一括出土銭に含まれる皇朝十二銭の存在は極めて稀とされている⁵⁾が、不破郡垂井町平尾（5）では和同開珎、萬年通寶、隆平元寶が確認されており、珍しい事例といえる。なお、安八郡神戸町大字南方（4）出土銭には、裏面の縁に刻みを施した銭貨（図2-1・2）や、円孔銭（同図3）、文字間に四穴のある銭貨（同図4～6）

表 1 岐阜県の一括出土銭一覧表(1)

No.	出土地	出土年	枚数等	銭種等	容器	出土理由・出土状況	立地・周辺の遺跡等
1	海津市南濃町松山	不明	約3貫700目	開元通寶、乾元重寶、淳熙元寶、嘉定通寶など21種類	甕	土地の開発中に出土した。	不明。
2	海津市海津町日原	昭和56年(1981)	約7,000枚	永樂通寶など、30種類以上	不明	木曾川右岸の川底から出土した。	付近には井戸跡が発見されており、村落内からの出土と考えられている。
3	大垣市笠木町、福田町	昭和45年(1970)	約600～700枚	治平元寶、聖宋元寶など	不明	杭瀬川の福田橋の架替え工事中に、水面下約4mで出土した。さしの状態で6本出土し、縹紐が残存していた。	福田城跡推定地が出土地に隣接している。
4	安八郡神戸町大字南方	昭和52年(1977)	10,451枚(破損銭除く)	開元通寶(621)～咸淳元寶(1266)、51種類	常滑広口壺	砂利採集時に地表下約0.7mから出土した。甕の周辺に灰が詰められていた。	出土地点の南東約600mに和泉城跡、北西約600mに西保北方城跡が所在する。また、出土地は寺院跡の言い伝えがあり、五輪塔が散在している。
5	不破郡垂井町平尾字石越	明治36年(1903)	8,388枚	開元通寶(621)～永樂通寶(1408)、37種類	壺	不明。	出土地点付近の南約1200mに美濃国分寺跡が所在する。
6	揖斐郡池田町小寺字北谷	昭和52年(1977)	668枚以上	開元通寶、皇宋通寶、太平通寶など14種類以上	不明	圃場整備事業の際に、地表下約2mから出土した。	美濃安国寺から約80m離れた地点から出土した。
7	揖斐郡大野町南方	明治30年頃(1897頃)	約400枚	開元通寶、皇宋通寶、洪武通寶、永樂通寶など30種類	不明	不明。	出土地点付近には領家実相院跡がある。
8	本巣市政田1024-1	昭和13～14年頃(1938～1939頃)	収1杯分(中世以前の銭貨は現存34枚)	開元通寶、乾元重寶、永樂通寶、宣徳通寶など19種類	不明	柿畑の開墾中に出土した。(現存分には寛永通寶、康熙通寶、桐1銭青銅貨などの近世から近代の銭貨が混じっている)	地元では、出土地付近を神宮、二の宮と呼称している。また、出土地の北側では発掘調査により中世後期の建物や井戸が検出されている。
9	岐阜市長良城之内遺跡	平成4年(1992)	387枚	開元通寶(621)～宣徳通寶(1433)、36種類	1号竹行李	堀(SD01)の底面から約0.3m上部の洪水堆積砂層中から出土した。4縹がまとまって出土し、縹銭の周囲は黒色の粘土状のもので覆われていた。	発掘調査で見つかった館跡は「枝広館」(守護所)と推定されている。
10	関市小金田	不明	不明	開元通寶、咸平元寶、政和通寶、皇宋元寶など21種類	甕	名鉄美濃町線敷設工事の際に出土した。	不明。
11	関市池尻宗蓮寺	昭和16年(1941)	約5貫	咸平元寶、祥符通寶、永樂通寶、朝鮮通寶など、10種類以上	瓶	里道の修繕中に、地表下約4尺から縹に通して一塊で出土した。	小山の南東麓に位置する。付近には宗蓮寺という寺院が存在していた。
12	郡上市美並町字下田	昭和29年(1954)	約5,000枚(重量約5貫)	永樂通寶、宣徳通寶など、37種類	甕	開田中に出土した。	不明。
13	郡上市大和町島野口	平成8年(1996)	5,404枚(破損銭24片除く、未回収の銭貨あり)	開元通寶(621)～世高通寶(1461)、60種類	古瀬戸甕	山麓にて、墓地整備のための整地作業中に、地表下約1mから甕に入って出土した。甕の底部付近には直径7～8cmの円礫が敷かれていた。	長良川と平行して延びる山地の東麓に位置する。南東約300mでは、梵字に金箔が施された五輪塔(杉ヶ瀬五輪塔)が出土している。
14	郡上市大和町万場野尻	昭和43年(1968)	2,465枚(破損銭52片除く、一部散逸)	開元通寶(621)～至大通寶(1310)、48種類	古瀬戸三耳壺	開田中に地表下約0.7mから壺に入って、縹の状態で出土した。また、壺とともに片口鉢の底部破片と山茶碗片が出土した。	出土地から長良川を挟んだ対岸約1000m南東に妙見宮跡が所在する。
15	郡上市大和町大間見友久	平成8年(1996)	10,766枚(破損銭34片除く)	開元通寶(621)～世高通寶(1461)、59種類	なし	車庫の基礎工事中に地表下約0.5mから出土した。一番上に一列縹の状態が確認され、その下に約0.5mの範囲内にかたまった状態で出土した。	大間見友久遺跡からは中世陶器が採集されている。

表2 岐阜県の一括出土銭一覧表(2)

No.	出土地	出土年	枚数等	銭種等	容器	出土理由・出土状況	立地・周辺の遺跡等
16	加茂郡坂祝町黒岩361-1	昭和57年(1982)	約70,000枚	永楽通寶、宣徳通寶、大観通寶など、37種類	甕	工事中に地表下約0.6mから出土した。十数枚ずつ麻紐に通してあった。	昭和59年の発見場所は、昭和57年の発見場所から約3m離れた地点とされている。また、地元では、出土地付近を勘兵衛屋敷と呼称している。
		昭和59年(1984)	約40,000枚	開元通寶、洪武通寶、永楽通寶、元豊通寶など	甕	クリ畑にて地表下約1.0mから出土した。銭貨は麻紐に通してあり、約300枚ずつ積み重ねられていた。	
17	土岐市妻木町敷島公園内	昭和39年(1964)	約1,000枚(約5.8kg)	開元通寶、慶元通寶、政和通寶、永楽通寶など	壺	公園の英霊碑の基礎工事中に出土した。	出土地には旧妻木城主の菩提寺である崇禪寺の末寺があるとされている。
18	中津川市千旦林辻原	明治30年(1897)	24貫	開元通寶、乾元重寶、永楽通寶、宣徳通寶など30種類	甕	不明。	出土地は御屋敷跡、殿様蔵の言い伝えのある場所である。
19	中津川市苗木三郷	昭和40年(1965)	約2,000枚(現存563枚)	開元通寶(621)～永楽通寶(1408)、36種類(563枚の計測結果)	壺	土地の開墾中に出土した。瀬戸系の壺の中から約100枚を一連として一塊の状態で出土した。	出土地から南西約500mの地点は砦跡の伝承がある。
20	中津川市霧ヶ原	元文年間(1736～1740)	8貫	和同開珎、元豊通寶、元祐通寶など	甕か	不明。	武器や家財も出土したとされている。
21	高山市清見町牧ヶ洞字石原1016	昭和47年(1972)	802枚	開元通寶(621)～永楽通寶(1408)、26種類	不明	水田の区画整理の際に、地表下約0.6mにて、長径約80cmの楕円形の扁平な礫の下から出土した。	出土地から東に約1000mの地点に牛首城跡が存在する。出土地には白川街道の副街道が通り、牧ヶ洞には土豪の邸跡が多かったとされている。
22	高山市下切町	不明	数100枚	洪武通寶、永楽通寶など	不明	工事中に出土した。	河岸段丘上に位置する。
23	高山市丹生川町町方尾崎城	明治39年(1906)	1,886枚(約43.5kg、枚数は現存するもの)	五銖(581)～宣徳通寶(1433)、56種類	呷	尾崎城の整地の際に出土した。発見届には11貫600目とあるが、大半は散逸している。	尾崎城二の丸付近から出土した。
24	高山市国府町木曾垣	昭和39年(1964)	約2,500枚	太平通寶、永楽通寶、大観通寶など	不明	水田の土地改良工事の際に、地表下約1mから出土した。	河岸段丘上に位置する。
25	高山市国府町宮地字目細	平成11年(1999)	505枚	開元通寶(621)～咸淳元寶(1265)、37種類	不明	林道工事中に、地表下約0.6mから出土した。畳半分程の範囲で固まって出土し、縋の状態が残存していたもある。	出土地の隣地は宮地荒城神社の社有地で、出土地は三休の滝付近である。
		平成12年(2000)	516枚	開元通寶(621)～咸淳元寶(1265)、39種類	不明	平成11年の出土地付近を再調査し、銭貨を採取した。	
26	高山市丹生川町森部字宮ヶ洞	明治18年(1885)	14,896枚(約50kg)	開元通寶(621)～永楽通寶(1408)、37種類	古瀬戸三耳壺 常滑広口壺か	森部の山中から出土した。	近世において、森部には金山があったとされている。出土銭貨のうち、763枚が現存している。

注

- ・ 出土地のうち、場所が特定できるものは地番まで記載した。
- ・ 枚数等は原則として出典のとおり記載したが、〇〇文は〇〇枚とした。また、筆者が計数し、枚数が出典と異なったもの(No. 4, 25)は、筆者の計数結果を記載した。なお、重量は出典とおり記載した。
- ・ 銭種は、総枚数と最古銭・最新銭が判明している場合は、最古銭(初鑄年)～最新銭(初鑄年)と記載し、銭種名が10種類以上明らかな場合は主な銭種のみ記載した(詳細は表3・4に記載した)。それ以外は出典のとおり記載した。
- ・ 表1・2の出典等は、文章末に記載した。

表3 銭種別枚数一覧表(1)

No.	銭貨名	国・王朝	初鋳年	1:海津市南濃町松山	4:安八郡神戸町南方	5:不破郡垂井町平尾	7:揖斐郡大野町南方	8:本巢市政田	9:城之内遺跡1号竹行李	10:関市小金田	11:関市池尻宗蓮寺	13:郡上市大和町島野口
1	五銖	隋	581									
2	開元通寶	唐	621	+	870	+	+	+	33	+		309
3	和同開珎	日本	708			+						
4	乾元重寶	唐	758	+	36			+	2			21
5	萬年通寶	日本	760			+						
6	隆平永寶	日本	796			+						
7	開元通寶	唐	845		30							13
8	咸康元寶	前蜀	925		1							
9	漢通元寶	後漢	948									1
10	周通元寶	後周	955		4							2
11	唐國通寶	南唐	959	+	4							
12	開元通寶	南唐	960		1							4
13	宋通元寶	北宋	960		44	+			1			21
14	太平通寶	北宋	976	+	109		+	+	2			40
15	淳化元寶	北宋	990		68	+	+	+	6			50
16	至道元寶	北宋	995		167	+	+	+	9			78
17	咸平元寶	北宋	998	+	186	+	+	+	8	+	+	90
18	景德元寶	北宋	1004	+	253	+	+		4			119
19	祥符元寶	北宋	1009	+	257	+	+		13			132
20	祥符通寶	北宋	1009		156	+				+	+	79
21	天禧通寶	北宋	1017	+	219	+			10	+		112
22	天聖元寶	北宋	1023	+	536	+	+	+	16	+	+	294
23	明道元寶	北宋	1032	+	32	+	+		1	+		25
24	景祐元寶	北宋	1034		177	+	+		4	+		58
25	皇宋通寶	北宋	1038	+	1,425	+	+	+	29	+		621
26	至和元寶	北宋	1054		131	+	+		3			58
27	至和通寶	北宋	1054		59				1	+		8
28	嘉祐元寶	北宋	1056		148	+	+		6			59
29	嘉祐通寶	北宋	1056		268		+		2	+		138
30	治平元寶	北宋	1064	+	216	+	+	+	8	+		101
31	治平通寶	北宋	1064		28	+				+		20
32	熙寧元寶	北宋	1068	+	1,012	+	+	+	37	+		435
33	元豐通寶	北宋	1078		1,233	+	+	+	40	+	+	611
34	元祐通寶	北宋	1086		1,006	+	+		30	+		490
35	紹聖元寶	北宋	1094	+	418	+	+	+	14	+		225
36	元符通寶	北宋	1098	+	156	+	+	+	7	+		74
37	聖宋元寶	北宋	1101	+	328	+	+	+	14	+		200
38	崇寧通寶	北宋	1102		1							1
39	大觀通寶	北宋	1107	+	121	+	+	+	3	+	+	46
40	政和通寶	北宋	1111	+	432	+	+	+	26	+	+	185
41	政和通寶 折二錢	北宋	1111		4							
42	宣和通寶	北宋	1119		6				1			15
43	宣和通寶 折二錢	北宋	1119									2
44	建炎通寶	南宋	1127									1
45	建炎通寶 折二錢	南宋	1127									1
46	紹興元寶 折二錢	南宋	1131									2
47	紹興通寶	南宋	1131		1							
48	正隆元寶	金	1157	+	12				1			7
49	乾道元寶	南宋	1165						1			
50	乾道元寶 折二錢	南宋	1165									
51	淳熙元寶	南宋	1174	+	65	+	+		2			23
52	大定通寶	金	1178			+						2
53	紹熙元寶	南宋	1190		23							8
54	慶元通寶	南宋	1195		23	+						5
55	嘉泰通寶	南宋	1201		17	+	+					6
56	開禧通寶	南宋	1205		8		+					4
57	嘉定通寶	南宋	1208	+	66	+	+		2		+	24
58	大宋元寶	南宋	1225									1
59	紹定通寶	南宋	1228		24	+			1			3
60	端平元寶	南宋	1234									
61	嘉熙通寶	南宋	1237		2							1
62	淳祐元寶	南宋	1241		13		+					5
63	皇宋元寶	南宋	1253		9	+				+		3
64	景定元寶	南宋	1260		7							3
65	咸淳元寶	南宋	1266		19							2
66	至大通寶	元	1310									
67	大中通寶	明	1361									2
68	洪武通寶	明	1368			+	+	+	7		+	37
69	永樂通寶	明	1408			+	+	+	35		+	512
70	朝鮮通寶	朝鮮	1423								+	1
71	宣德通寶	明	1433					+	2			11
72	世高通寶	琉球	1461									1
73	判読不明				20				6			2
74	島銭											
合計				—	10,451	8,388	—	現存34	387	—	—	5,404
破損銭					5							24

注 表中の「+」は存在するが、枚数が不明なもの。

表4 錢種別枚数一覧表(2)

No.	錢貨名	国・王朝	初鑄年	14:郡上市 大和町万 場野尻	15:郡上市 大和町大間 見友久	18:中津川 市千旦林 辻原	19:中津川 市苗木三 郷	21:高山市 清見町 牧ヶ洞	23:高山市 丹生川町 尾崎城	25:高山市 国府町宮 地	26:高山市 丹生川町 森部
1	五銖	隋	581						1		
2	開元通寶	唐	621	168	641	+	35	+	126	78	1345(38)
3	和同開珎	日本	708								
4	乾元重寶	唐	758	13	34	+	2		9	7	24(2)
5	萬年通寶	日本	760								
6	隆平永寶	日本	796								
7	開元通寶	唐	845	15	18				3	2	
8	咸康元寶	前蜀	925								
9	漢通元寶	後漢	948	1	1						
10	周通元寶	後周	955	1	2				1		
11	唐國通寶	南唐	959		3				3	1	
12	開元通寶	南唐	960		9						
13	宋通元寶	北宋	960	6	32		2		8	6	111(1)
14	太平通寶	北宋	976	32	98	+	6		24	8	296(6)
15	淳化元寶	北宋	990	23	76	+	4	+	23	10	188(8)
16	至道元寶	北宋	995	41	145	+	13	+	48	19	1049(10)
17	咸平元寶	北宋	998	32	170	+	7		47	14	229(6)
18	景德元寶	北宋	1004	49	231	+	6	+	51	20	(17)
19	祥符元寶	北宋	1009	63	280		16	+	46	20	323(13)
20	祥符通寶	北宋	1009	44	150		8		31	15	81(6)
21	天禧通寶	北宋	1017	62	212	+	14	+	45	22	430(14)
22	天聖元寶	北宋	1023	114	485	+	16	+	103	40	619(39)
23	明道元寶	北宋	1032	7	45	+	5	+	5	2	(6)
24	景祐元寶	北宋	1034	44	125		9		25	18	529(8)
25	皇宋通寶	北宋	1038	349	1,214		57	+	136	137	269(74)
26	至和元寶	北宋	1054	32	90	+	11		23	15	323(12)
27	至和通寶	北宋	1054	12	32		1		3	4	(1)
28	嘉祐元寶	北宋	1056	36	125		9		9	13	67(7)
29	嘉祐通寶	北宋	1056	46	250	+	18		20	23	(24)
30	治平元寶	北宋	1064	40	189	+	11		20	20	215(19)
31	治平通寶	北宋	1064	7	27	+			5	2	
32	熙寧元寶	北宋	1068	241	930	+	42	+	166	78	1507(66)
33	元豐通寶	北宋	1078	328	1,212	+	69	+	214	122	1507(84)
34	元祐通寶	北宋	1086	211	917	+	57	+	154	101	1103(78)
35	紹聖元寶	北宋	1094	111	424		22	+	71	42	1143(21)
36	元符通寶	北宋	1098	32	122		7	+	26	15	(7)
37	聖宋元寶	北宋	1101	100	364		20	+	67	36	350(22)
38	崇寧通寶	北宋	1102								
39	大觀通寶	北宋	1107	24	82	+	8	+	13	20	256(4)
40	政和通寶	北宋	1111	98	330	+	20	+	62	53	269(35)
41	政和通寶 折二錢	北宋	1111	1							
42	宣和通寶	北宋	1119	8	35	+	5	+	7	5	67(2)
43	宣和通寶 折二錢	北宋	1119		4						
44	建炎通寶	南宋	1127	1							
45	建炎通寶 折二錢	南宋	1127								
46	紹興元寶 折二錢	南宋	1131		3						
47	紹興通寶	南宋	1131	1							
48	正隆元寶	金	1157		11	+		+	3		
49	乾道元寶	南宋	1165								
50	乾道元寶 折二錢	南宋	1165		2						
51	淳熙元寶	南宋	1174	15	49	+	1	+	18	8	(2)
52	大定通寶	金	1178		8			+	2		
53	紹熙元寶	南宋	1190	8	21				6	3	
54	慶元通寶	南宋	1195	4	16	+	1		7	3	67(2)
55	嘉泰通寶	南宋	1201	7	10				5	2	
56	開禧通寶	南宋	1205	3	5				4	1	
57	嘉定通寶	南宋	1208	9	26	+	2		10	3	27(1)
58	大宋元寶	南宋	1225						1		
59	紹定通寶	南宋	1228		17	+			8	2	
60	端平元寶	南宋	1234		1				1		
61	嘉熙通寶	南宋	1237	4				+	4		
62	淳祐元寶	南宋	1241		11	+	1		9	1	(1)
63	皇宋元寶	南宋	1253	1	10				5		1130(2)
64	景定元寶	南宋	1260	2	13		2		4		
65	咸淳元寶	南宋	1266	4	14	+			4	2	(2)
66	至大通寶	元	1310	2	1			+	2		
67	大中通寶	明	1361		4				2		
68	洪武通寶	明	1368		223	+	2	+	73		67(8)
69	永樂通寶	明	1408		1,144	+	53	+	112		1049(40)
70	朝鮮通寶	朝鮮	1423		11				3		
71	宣德通寶	明	1433		51	+			8		
72	世高通寶	琉球	1461		1						
73	判読不明			12	10					28	94(75)
74	島錢			1				+			
合計				2,465	10,766	—	現存563	802	1,886	1,021	14,896(763)
破損錢				52	34					16	

注 表中の「+」は存在するが、枚数が不明なもの。 26:高山市丹生川町森部の()は現存分を示す(丹生川村 2000を転記した)。

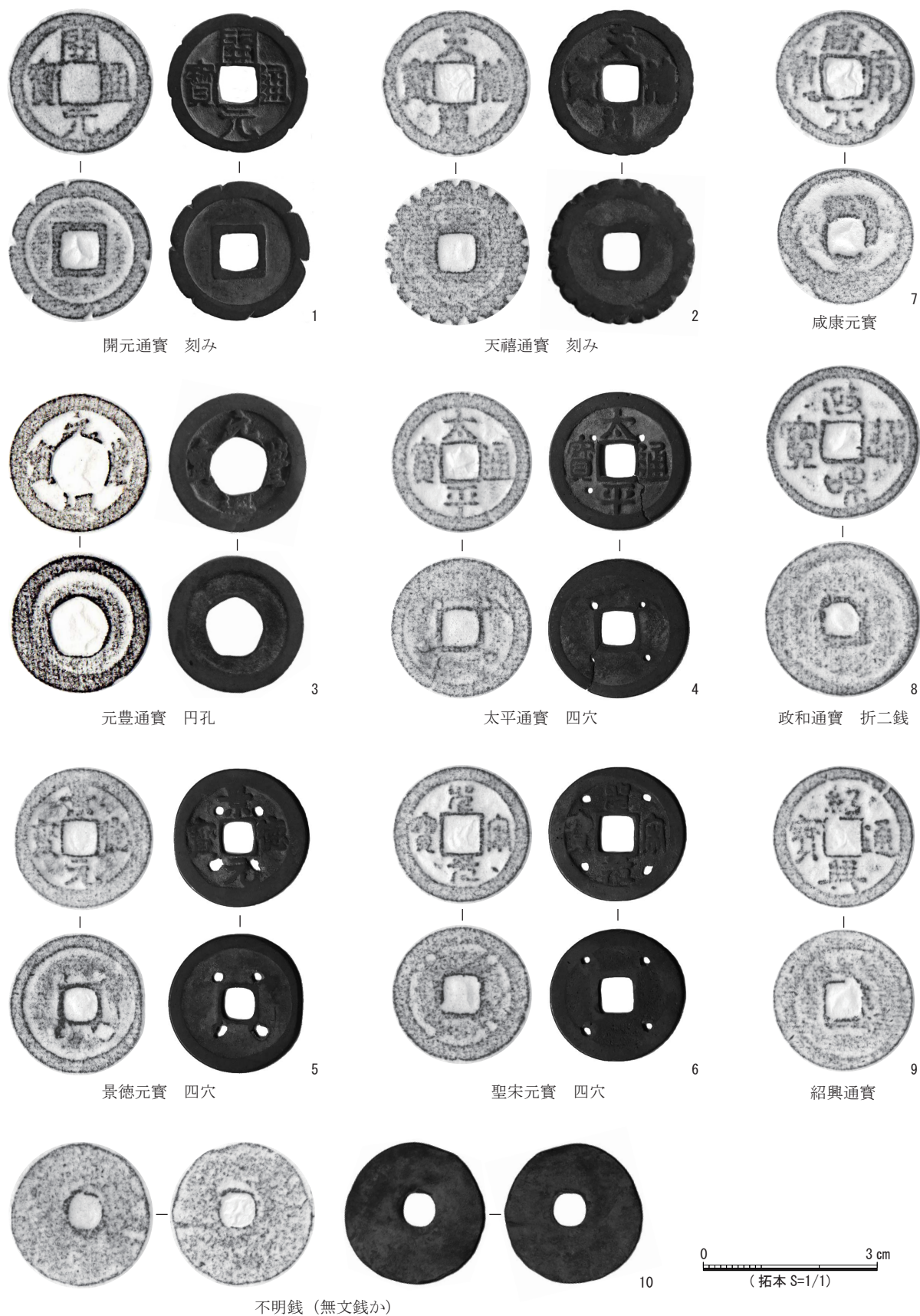


図2 安八郡神戸町大字南方の主な出土銭

などの加工銭が含まれていた⁶⁾。しかし、四穴のある銭貨は、穴が錆び等によって生じたものか、意図的に穿孔されたものかの判断はできなかった。また、同出土銭のうち、不明銭としたものには無文銭と思われる銭貨が1点含まれていた（同図－10）。これは、重さ1.8 g、厚さ0.5～0.6 mmで、他の銭貨と比べて明らかに薄く、孔が四角気味で、孔郭や縁が認められないものである。また、他の銭貨よりも緑青の付着が著しく、粗悪な印象を受けた⁷⁾。

なお、鈴木公雄氏の最新銭による時期区分⁸⁾に照らし合わせると、安八郡神戸町大字南方（4）と高山市国府町宮地（25）が1期、郡上市大和町万場野尻（14）が2期、郡上市大和町島野口（13）と大間見友久（15）が7期となる。また、銭種に不明な点があるため取り扱いには注意を要するが、高山市丹生川町森部（26）が4期、高山市丹生川町町方尾崎城（23）が6期に該当する。

3 収納容器

収納容器の内訳は、16例が壺や甕などの陶器、2例が竹行李などの有機物、11例が不明若しくは確認できなかったものである。このうち、筆者が実見した資料と写真等で確認した資料を図3に掲載した（以下、文章中の番号は図3の番号に対応する）。

1は神戸町大字南方出土銭の収納容器である常滑広口壺で、底径15.2 cm、最大径35.8 cm、残存高26.9 cmである。底部は平底で、胴部下方はわずかに湾曲して開き、肩部が大きく張り出す。胴部外面下方には底部から搔き上げたヘラ削り痕が残り、内面は肩部付近まで銭形の緑青が付着している。

2は郡上市大和町島野口出土銭の収納容器である古瀬戸甕で、底径13.8 cm、残存高11.2 cmである。底部は平底で、胴部はわずかに湾曲して開く。胴部外面には回転ヘラ削り痕、内面にはロクロ目が残り、胴部内外面に鉄釉が施されている。また、内面には銭形の緑青が付着している。

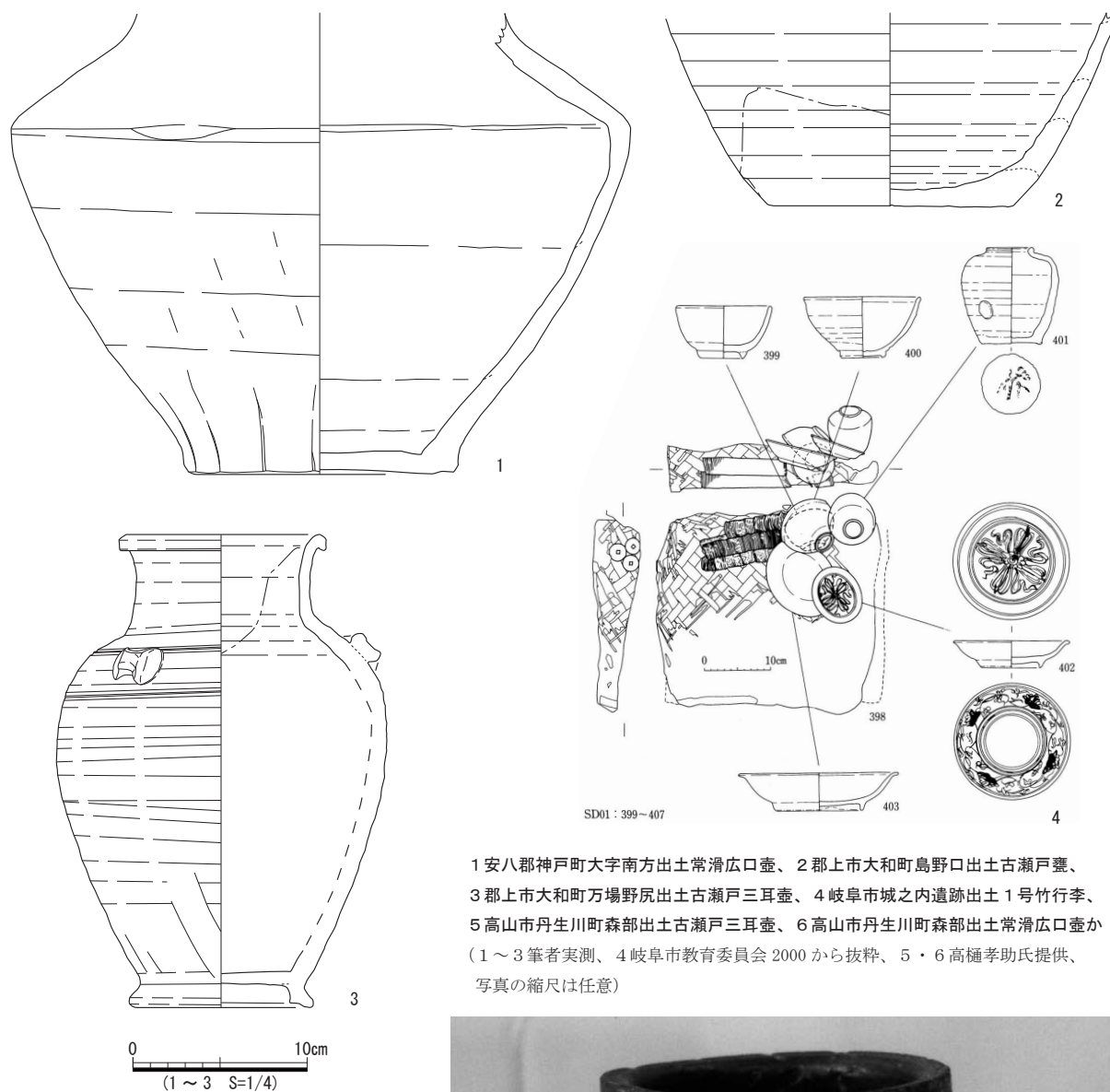
3は郡上市大和町万場野尻出土銭の収納容器である古瀬戸三耳壺で、口径12.0 cm、底径10.6 cm、器高27.2 cm、最大幅19.1 cmである。底部は平底で、後付けされた高台を有する。胴部の膨らみは弱く、肩部は撫で肩で、頸部はほぼ直立する。口縁部は外側に折り返され、耳部は細長い粘土板の両端を指で押さえて貼り付けてある。肩部外面に2条1組の沈線が上下2段に施され、高台周辺と胴部内面を除き灰釉が施されている。なお、底部内面から上へ14 cmの箇所まで緑青がわずかに確認できる。

4は岐阜市城之内遺跡SD01出土銭の収納容器である1号竹行李で、長辺33.7 cm、短辺28.2 cm、残存高7.0 cmである。1号竹行李内からは緡銭が4緡重なって出土し、緡銭の一方の端の上方から中国製染付皿、白磁皿、瀬戸美濃産灰釉小杯、鉄釉天目茶碗、鉄釉茶入の5点がまとまって出土した。また、竹行李内からは曲物の底板のような円盤状木製品、小型の鉄釘数点、種子なども出土した。

5・6は高山市丹生川町森部出土銭の収納容器で、5は外面に灰釉が施された古瀬戸三耳壺、6は口縁部の縁帯が下方に延びた常滑広口壺（若しくは甕）である⁹⁾。

なお、岐阜市城之内遺跡SD01出土の1号竹行李は洪水砂層中からの出土で、容器内から緡銭とともに陶磁器などが出土しており、他の一括出土銭とは性格が異なる可能性を考えた方がよい。

一方、収納容器の時期と収納枚数・最新銭との関係は、表5のとおりである。図3に掲載した資料は、いずれも収納容器の時期（城之内遺跡の事例のみ埋没した時期）が、収納されていた最新銭の年代とほぼ同時期かそれよりも新しい。なお、安八郡神戸町大字南方出土銭は、収納容器である常滑広口壺の時期が13世紀後半で、出土枚数が1万枚以上であるにも関わらず至大通寶（初鑄年1310年）以



1 安八郡神戸町大字南方出土常滑広口壺、2 郡上市大和町島野口出土古瀬戸甕、
3 郡上市大和町万場野尻出土古瀬戸三耳壺、4 岐阜市城之内遺跡出土1号竹行李、
5 高山市丹生川町森部出土古瀬戸三耳壺、6 高山市丹生川町森部出土常滑広口壺か
(1～3筆者実測、4岐阜市教育委員会2000から抜粋、5・6高樋孝助氏提供、
写真の縮尺は任意)

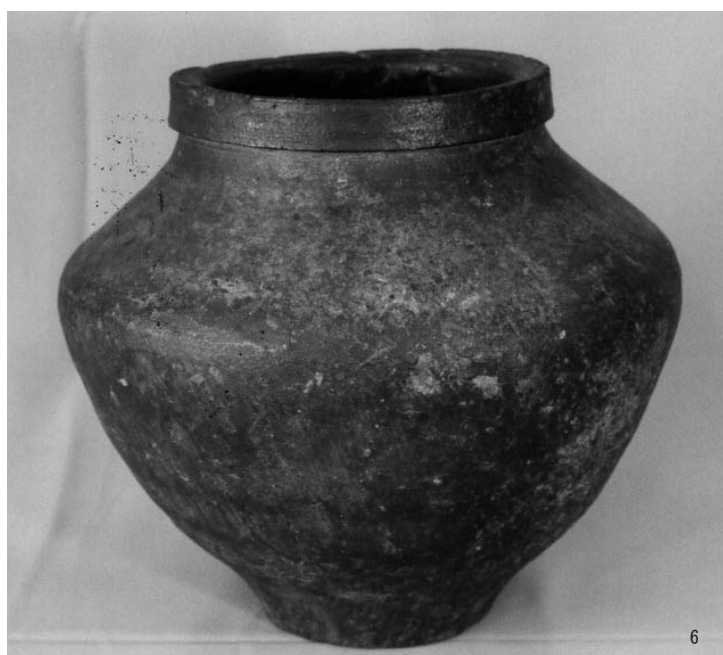
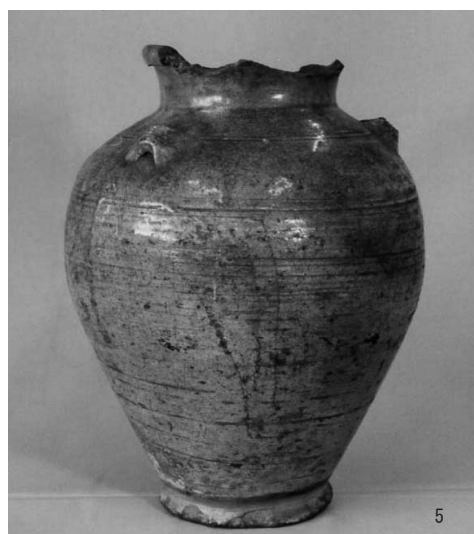


図3 一括出土銭の収納容器

表5 収納容器と容器内の銭貨

No.	出土場所	収納枚数	最新銭	初鑄年	収納容器	容器等の時期
1	安八郡神戸町大字南方(4)	10,451枚	咸淳元寶	1266年	常滑広口壺	13世紀後半
2	郡上市大和町島野口(13)	5,404枚	世高通寶	1461年	古瀬戸甕	15世紀後半 (古瀬戸後期後半)
3	郡上市大和町万場野尻(14)	2,465枚	至大通寶	1310年	古瀬戸三耳壺	15世紀前半 (古瀬戸後Ⅲ期)
4	城之内遺跡SD01(9)	387枚	宣徳通寶	1433年	竹行李	1535(天文4)年の大洪水で埋没か
5	高山市丹生川町森部(26)	14,896枚	永楽通寶か	1408年か	古瀬戸三耳壺	15世紀中葉 (古瀬戸後Ⅲ～Ⅳ期古)
6	高山市丹生川町森部(26)				常滑広口壺か	15世紀前半か (常滑9型式か)

注

- No. は図3の番号に対応する。
- 出土位置の()の番号は、表1・2のNo. に対応する。
- No. 4以外は、未回収や散逸した銭貨がある。
- 収納容器の器種と時期について、古瀬戸製品のうち、2・3は藤澤良祐氏に遺物を実見していただき、5は同氏に写真を見ていただき御教示を得た。また、常滑製品(1, 6)は中野晴久氏に写真を見ていただき御教示を得た。

降に鑄造された銭貨が含まれないことから、13世紀後半頃に埋められた可能性が高い。これは、先述のとおり鈴木公雄氏の最新銭による時期区分の1期に該当する。1期の一括出土銭の分布は、平成11年の時点で青森県から福岡県にいたる18府県で発見されており¹⁰⁾、岐阜県においても、すでにこの頃から大量の銭を一箇所に埋める行為があったといえる。

おわりに

岐阜県内の一括出土銭は工事等による偶然の発見が多いものの、出土位置が判明している資料も少なくない。一括出土銭の研究をさらに進めるためには、その位置を埋蔵文化財包蔵地として登録し、周知することが望ましい。また、県内には未調査の一括出土銭も数多く残されている。一括出土銭が埋められた中世という時代は「商品経済の時代」¹¹⁾であり、その主要な媒介物である銭貨の研究は地域の中世史を語る上で不可欠である。一括出土銭の調査は多くの時間と労力を要するが、小稿が県内における銭貨研究の基礎的な資料となれば幸いである。今後の成果に期待したい。

なお、小稿の執筆に際し、下記の方々からご教示をいただきました。記して感謝申し上げます(五十音順、敬称略)。

岩田崇、亀田剛広、高樋孝助、竹中健二、中野晴久、野村美紀、藤澤良祐、横幕大祐

注

- 1) 岐阜県文化財保護センター授業改善研究グループ2016「ふるさとの歴史に興味・関心をもてる出前授業のあり方」『研究紀要』第2号 岐阜県文化財保護センター
- 2) 一箇所から大量に出土する銭貨の呼称は、備蓄銭、大量出土銭、一括出土銭、大量一括出土銭、一括銭、埋蔵銭、埋納銭などがある(坂詰秀一2002「銭貨の考古学」『季刊考古学』第78号、雄山閣)。今回集成した資料には、埋められた行為の性格を特定できるものがほとんどなく、また、枚数は約100枚以上とし、一貫文(1000枚)以下の事例も対象に含めている。そのため、銭貨の呼称には性格や量を示す用語を用いず、櫻木晋一氏が提唱した「一括出土銭」を用いた(櫻木晋一2007「出土銭貨からみた中世貨幣流通」『貨幣の地域史—中世から近世へ』岩波書店)。
- 3) 岐阜日日新聞朝刊(昭和60年3月6日)
- 4) 鈴木公雄1999『出土銭貨の研究』東京大学出版会

- 5) 注 4
- 6) 円孔銭と四穴の名称は、櫻木晋一 2016『貨幣考古学の世界』ニューサイエンス社、に従った。
- 7) なお、安八郡神戸町大字南方出土銭のうち、任意に選んだ元豊通寶 10 枚の重さと厚さの平均値は、重さが 3.73 g、厚さが 1.08 mm である。
- 8) 注 4 なお、岐阜市長良城之内遺跡（9）は、総枚数が少ないために時期区分を行わなかった。
- 9) 遺物を実見できていないため、詳細は不明である。
- 10) 注 4
- 11) 小野正敏 2000「中世の物価と埋納銭」『日本史研究最前線』新人物往来社

表 1・2 出典等

- No. 1 岐阜県教育会 1923『濃飛両国通史 上巻』
- No. 2 中日新聞朝刊（昭和 56 年 8 月 19 日）
- No. 3 岐阜日日新聞夕刊（昭和 45 年 11 月 12 日）
- No. 4 神戸町 1980『郷土の歴史 ごうど』、神戸町教育委員会 1983『神戸町の文化財』（銭種と枚数は、筆者と井手大介氏の計数による。）
- No. 5 岐阜県教育会 1923『濃飛両国通史 上巻』
- No. 6 池田町 1978『池田町史』、中日新聞朝刊（昭和 51 年 11 月 19 日）（枚数は横幕大祐氏の御教示による。）
- No. 7 岐阜県教育会 1923『濃飛両国通史 上巻』
- No. 8 岐阜県文化財保護センター 2016『平成 27 年度 年報』（銭種と枚数は筆者の計数による。）
- No. 9 岐阜市教育委員会 2000『城之内遺跡―長良公園整備事業に伴う緊急発掘調査―』（第 2 分冊）
- No. 10 岐阜県教育会 1923『濃飛両国通史 上巻』
- No. 11 林魁一 1942「美濃国瀬尻村発見の古銭に就て」『考古学雑誌』第 32 巻第 10 号 日本考古学
- No. 12 朝日新聞朝刊（昭和 29 年 4 月 24 日）
- No. 13 永井久美男・小野木学 1997「岐阜県郡上郡大和町の大量出土銭について」『出土銭貨』第 8 号
- No. 14 永井久美男・小野木学 1997「岐阜県郡上郡大和町の大量出土銭について」『出土銭貨』第 8 号
- No. 15 小野木学 1997「岐阜県郡上郡大和町 大間見友久出土銭について」『出土銭貨』第 7 号
- No. 16 坂祝町 2005『坂祝町史 通史編』、岐阜日日新聞朝刊（昭和 57 年 2 月 16 日）、岐阜日日新聞朝刊（昭和 60 年 3 月 6 日）
- No. 17 岐阜日日新聞朝刊（昭和 39 年 5 月 23 日）
- No. 18 中津川市 1968『中津川市史 通史 上巻』
- No. 19 中津川市 1968『中津川市史 通史 上巻』
- No. 20 中津川市 1968『中津川市史 通史 上巻』
- No. 21 清見村誌編集室 1976『清見村誌 下巻』
- No. 22 岩田崇氏の御教示による。
- No. 23 丹生川村 1997『丹生川村史 資料編 1』
- No. 24 中部日本新聞夕刊（昭和 39 年 12 月 19 日）
- No. 25 井之口卓義 2000「国府町宮谷出土の古銭について」『飛騨春秋』第 476 号（銭種と枚数は筆者の計数による。）
- No. 26 丹生川村 2000『丹生川村史 通史編 1』

参考文献

- 愛知県 2007『愛知県史 別冊 窯業 2 中世・近世 瀬戸系』
- 愛知県 2012『愛知県史 別冊 窯業 3 中世・近世 常滑系』
- 国立歴史民俗博物館編 1998『お金の不思議―貨幣の歴史学―』山川出版社
- 摂河泉地域史研究会 1993『摂河泉文化資料』第 42・43 号 摂河泉文庫
- 摂河泉地域史研究会 1995『摂河泉文化資料』第 44 号 摂河泉文庫
- 東北中世考古学会編 2001『中世出土模鑄銭』高志書院
- 永井久美男 2002『新版 中世出土銭の分類図版』高志書院